

口腔外科・歯科学総論

[講義] 第2学年 前期 必修 1単位

《担当者名》飯田貴俊 tiida@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

顎口腔機能に障害を持つ患者に対応する上で必要となる歯科学・口腔外科学の基礎知識を学ぶ。特に、言語聴覚士が対象とする障害、疾患に関連する口腔領域の問題について詳細に学ぶ。

【学修目標】

一般目標

(口腔外科) 口腔機能障害の言語聴覚療法を行う上で、その基礎となる口腔・顎・顔面の疾患について、病態、検査法、治療法を学ぶ。また、言語聴覚療法と関係する、口腔、顎、顔面の機能障害の治療法と歯科領域における言語聴覚士の役割を学ぶ。

1. 口腔外科で取り扱う疾患と治療法の概要を理解する。
2. 唇顎口蓋裂の病態と治療法を学ぶ。
3. 各種の口腔疾患により生じる言語障害と治療法を学ぶ。

(歯科学) 言語聴覚士が言語聴覚療法を実施するために必要な口腔領域の解剖と機能を理解し、さらに他職種連携のための歯科学理解を深める。

行動目標

(口腔外科)

1. 口腔外科に関連する口腔・顎・顔面領域の先天異常・発育異常をきたす疾患を説明できる。
2. 諸突起の融合不全により生じる疾患を説明できる。
3. 顎変形症の症状、治療法を説明できる。
4. 口腔・顎・顔面領域の嚢胞の定義、種類、症状を説明できる。
5. 口腔・顎・顔面領域の良性・悪性腫瘍の種類、症状を説明できる。
6. 良性腫瘍と悪性腫瘍の相違を説明できる。
7. 口腔・顎・顔面領域の炎症の症状、検査所見、治療法を説明できる。
8. 歯性感染症の特徴について説明できる。
9. 口腔・顎・顔面領域の損傷と治療法について説明できる。
10. おもな口腔粘膜疾患について説明できる。
11. おもな唾液腺疾患について説明できる。
12. おもな顎関節疾患を説明できる。
13. 口腔・顎・顔面領域のおもな神経疾患・心因性疾患について概説できる。
14. 口腔・顎・顔面領域のおもなリンパ系疾患を概説できる。
15. 唇顎口蓋裂の原因、治療法、障害について説明できる。
16. 唇裂・口蓋裂の手術時期、手術法を説明できる。
17. おもな口腔疾患により生じる言語障害の症状、種類を説明できる。
18. おもな口腔疾患により生じる言語障害の治療法を説明できる。
19. 補綴的発音補助装置の種類と適応を説明できる。

(歯科学)

1. 口腔・歯の構造・機能の概要を説明できる。
2. 歯科医療の概要および言語聴覚士との関わりについて説明できる。
3. 歯科疾患について説明できる。
4. 歯科治療について説明できる。
5. 誤嚥性肺炎の発症機序、予防のための口腔ケアの予防効果について説明できる。
6. 超高齢社会における『口腔機能低下症』について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 歯科医療の概要 歯科と言語聴覚士のかかわり 歯科治療の特徴 歯の形態・構造・機能 歯の発生、歯の萌出	講義に概要について説明する。 歯科医療の概要について理解する。 歯科治療の特徴について理解する。 口腔・歯の形態・構造・機能について理解する。 歯の構成要素(エナメル質、象牙質、セメント質、歯髄)、歯周組織について理解する。 歯の発生や、歯の萌出時期、萌出順序について理解する。	飯田貴俊

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
2	口腔の形態、構造、機能 歯科診療科のバリエーションについて 歯科疾患（う蝕、歯髄炎、歯周病、 歯列不正等）	口腔の形態、構造、機能について理解する。 他職種連携のため歯科診療科について理解する。 歯科疾患（う蝕、歯髄炎、歯周病、歯列不正等）の原因、重症度について理解する。	飯田貴俊
3	歯科治療（保存修復、歯内療法、歯 周病治療、補綴、矯正等） 口腔ケアと口腔健康管理について	歯科治療（保存修復、補綴、矯正等）の概要について 理解する。 口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防効果、口腔ケアの具 体的方法を理解する。	飯田貴俊
4	嚥下補助装置について 超高齢社会と『口腔機能低下症』に ついて	摂食嚥下障害に対する補綴的治療（舌接触補助床、軟 口蓋挙上装置等）について理解する。 超高齢社会で求められる口腔機能へのニーズと、『口 腔機能低下症』について理解する。	飯田貴俊
5	舌・口底・頬粘膜・口唇の異常	口腔外科の対象となる疾患舌・口底・頬粘膜・ 口唇に異常をきたす疾患の病態と治療法を学修する	飯田貴俊
6	顎骨の先天異常・発育	顎骨の先天異常・発育異常をきたす疾患の病態と治療 法を学修する	飯田貴俊
7	顎・顔面・口腔領域の炎症、外傷	顎・口腔領域の炎症、外傷の病態と治療法の概要を学 修する	飯田貴俊
8	顎・顔面・口腔領域の嚢胞、腫瘍、 前がん病変	顎・口腔領域の嚢胞、腫瘍、前がん病変の病態と治療 法の概要を学修する	飯田貴俊

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（80％）

講義中の小テスト(20%)

【教科書】

最新言語聴覚学講座 臨床歯科医学・口腔外科学・道健一・医歯薬出版

【学修の準備】

シラバスでのテーマと授業内容に対応する範囲を配布資料、参考書で予習しておくこと。特に専門用語についてはその意味を理解しておく。

予習は、次回の範囲の配布資料・参考書を読み、講義内容を理解しておく。（80分）

復習は、配布資料・講義の学習内容のメモ等を使用する。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2．言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

飯田貴俊（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師としての実務経験を活かし、言語聴覚士として必要な歯科関連の知識について講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している